KAWAI

DIGITAL PIANO
CA49
取扱説明書

JA

お読みください
準　備
基本編
応用編
付　録

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

弊社電子楽器製品をお使いの際は、安全のため以下の注意事項を守った上でお使いください。
小さなお子様がいる場合は、保護者の管理の元、安全にお使いください。

▌警告と注意、記号表示について

警告と注意、記号表示には以下のような意味が有ります。

⚠ 警告
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

⚠ 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

⚠ △ 記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。

⃠ ⃠ 記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。

● 記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。

お読みください

⚠ 警告

電源は必ず AC100V をお使いください。
電圧の異なる電源を使用すると故障や発火の恐れがあります。

付属の電源コードや AC アダプターは、本機でのみ使用してください。
付属の電源コード /AC アダプター以外を本機で使用しないでください。
付属の電源コード /AC アダプターを他の機器で使用しないでください。
故障や発火の恐れがあります。

電源コードや AC アダプターのコードは、無理に曲げたり、重いものを乗せたり、熱いものを近づけたり、傷つけたりしないでください。
コードが破損し、発火、感電、故障の恐れがあります。

本機を分解、修理、改造しないでください。
発火、感電、故障の恐れがあります。
分解禁止

AC アダプターは分解、修理、改造しないでください。
また熱いものに近づけたり、熱がこもるような使い方をしたりしないでください。
発火、感電、故障の恐れがあります。
分解禁止

電源コードを抜く時は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
コード部分を持って引っ張るとコードが破損し、発火、感電、故障の恐れがあります。

落雷の恐れがある時や長時間使用しない時は、必ず電源コードを抜いてください。
発火、感電、故障の恐れがあります。

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取ってください。
発火、感電、故障の恐れがあります。

水に濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の恐れがあります。
ぬれ手禁止


水ぬれ禁止

製品を濡らさないでください。

水につけたり、こぼしたりすると感電、故障の恐れがあります。



異常が起こった時は、すぐに電源スイッチを切り、コンセントから電源コードのプラグを抜いてください。

下記のような場合は、故障している可能性がありますので、使用は控え、電源コードを外したままの状態で弊社修理受付窓口にお問い合わせください。

1 製品の内部に異物が入ってしまった場合
2 水がかかって内部が濡れてしまった場合
3 製品や付属品の一部が異常に熱くなった場合
4 異常な臭いや煙が出た場合　など

⚠ 注意

電源コードのプラグは、直ぐに抜くことができる状態にしておいてください。

この機器は、電源スイッチを切った状態でも主電源から完全に遮断されているわけではありません。
完全に遮断するためには、電源プラグを抜いてください。

鍵盤蓋や譜面台やペダルの下などの隙間に体の一部を入れないでください。

挟んだり擦ったりして怪我をする恐れがあります。

製品に乗ったり、ぶら下がったり、押したりしないでください。

製品が倒れたり、壊れたりして怪我をする恐れがあります。

製品の周りで走り回らないでください。

ぶつかって怪我をする恐れがあります。

製品を落としたり、強い衝撃を加えたりしないでください。

怪我をしたり破損したりする恐れがあります。

ヘッドホンは大音量で長時間使用しないでください。

聴力低下の原因になる恐れがあります。

製品や椅子の組み立て時は、組立説明を読んでから作業してください。

正しく組み立てないと落下、破損、怪我の恐れがあります。

製品や椅子の組立ネジはゆるみを定期的に点検し、必要に応じて締めなおしてください。

ゆるんだまま使用すると落下、破損、怪我の恐れがあります。

小さな部品はお子様の手の届かない場所で保管してください。

お子様が誤って飲み込んでしまう恐れがあります。

製品を移動する時は、複数の人で水平に持ち上げて動かしてください。

落として怪我をする恐れがあります。

椅子で遊んだり、踏み台にしたり、2 人以上で座ったりしないでください。

怪我をする恐れがあります。

椅子の高さ調節は、椅子から降りて行ってください。

（調節機能付きの場合）椅子が倒れたり、指を挟んだりして怪我をする恐れがあります。

製品使用場所の注意
以下の場所では、製品を使用しないでください。

1 製品がグラグラする不安定な場所
2 水がかかる場所
3 極端に温度の高い、もしくは低い場所
4 極端に湿度の高い、もしくは低い場所
5 窓際など直射日光の当たる場所
6 砂やホコリの多い場所
7 振動の多い場所

はじめに

このたびは KAWAI デジタルピアノをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本楽器を存分にお楽しみいただき、末永くご愛用いただくためにも、本取扱説明書をよくお読みいただき、
保証書と共に大切に保管くださいますようお願いいたします。

取扱説明書について

取扱説明書では、本機をすぐお使いできるよう基本的な演奏ガイドから、様々な機能を使いこなすための操作まで説明しています。
また、付録には組立方法などの資料がございます。

銘板について

機種名、製造番号等の情報は、製品下部の銘板に記載されています。

知的財産権について

- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社河合楽器製作所はライセンスに基づき使用しています。
- “MIDI” は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- その他、本取扱説明書に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
- 市販の音楽 CD や音楽ファイル、SMF など、既存の著作物を利用して作られた作品を本機で利用する場合、著作権法上、権利者に無断で個人的に又は家庭内その他これに準ずる範囲を超えて使用することはできませんのでご注意ください。お客様が著作権法に違反する行為を行った場合、当社は一切の責任を負いません。

表記について

- 操作方法を説明する際、［ ］で囲まれた表示はスイッチ、スライダー、ボタン、端子の各名称を表します。
- 指マークは操作するボタンの押す場所を表し、マーク内の番号は操作する順番を表します。

お手入れについて

- 本体は乾いた柔らかい布で拭いてください。
- ペダルの表面が汚れた場合、乾いた食器洗い用スポンジで拭くと綺麗になります。ゴールドペダルは、布で拭くとかえって曇ってしまう場合があります。
- ペダルが汚れた場合、サビ落とし用の磨き剤ややすり等は使用しないでください。
- 色落ちや変形の原因となりますので、本機をベンジンやシンナーで拭かないでください。

修理について

万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、お買い求めいただいた販売店、もしくは修理受付窓口にご連絡ください。弊社修理受付窓口は本取扱説明書の裏表紙に記載してあります。

付属品（お確かめください）

□ 保証書
☑ 取扱説明書（本書）
□ 高低自在椅子
□ スタンド組立説明書
□ 電源コード
□ AC アダプター（PS-154）
□ ヘッドホン
□ ヘッドホンフック

目次

お読みください

2 **安全上のご注意**
4 **はじめに**
5 **目次**
6 **各部の機能と名称**

準　備

7 **鍵盤蓋を開ける / 閉める**
7 **譜面立てを使う**
7 **アジャスターの調節**
8 **電源を入れる**
9 **音量を調節する / ヘッドホンを使う**

基本編

10 **いろいろな音色で演奏する**
11 **ペダルを使う**
12 **デュアル**
14 **4 ハンズ（連弾演奏）**
15 **メトロノームを使う**
17 **デモソングを聴く**
18 **レッスン**
18 1 練習したい曲を選ぶ
19 2 レッスン曲を聴く
20 3 片手ずつ練習する
21 **コンサートマジック**
21 1 コンサートマジックとは？
21 2 コンサートマジック曲を演奏する
22 3 コンサートマジック曲を聴く
23 **演奏を録音する**
24 **録音した演奏を再生する**
24 **録音した演奏を消去する**

応用編

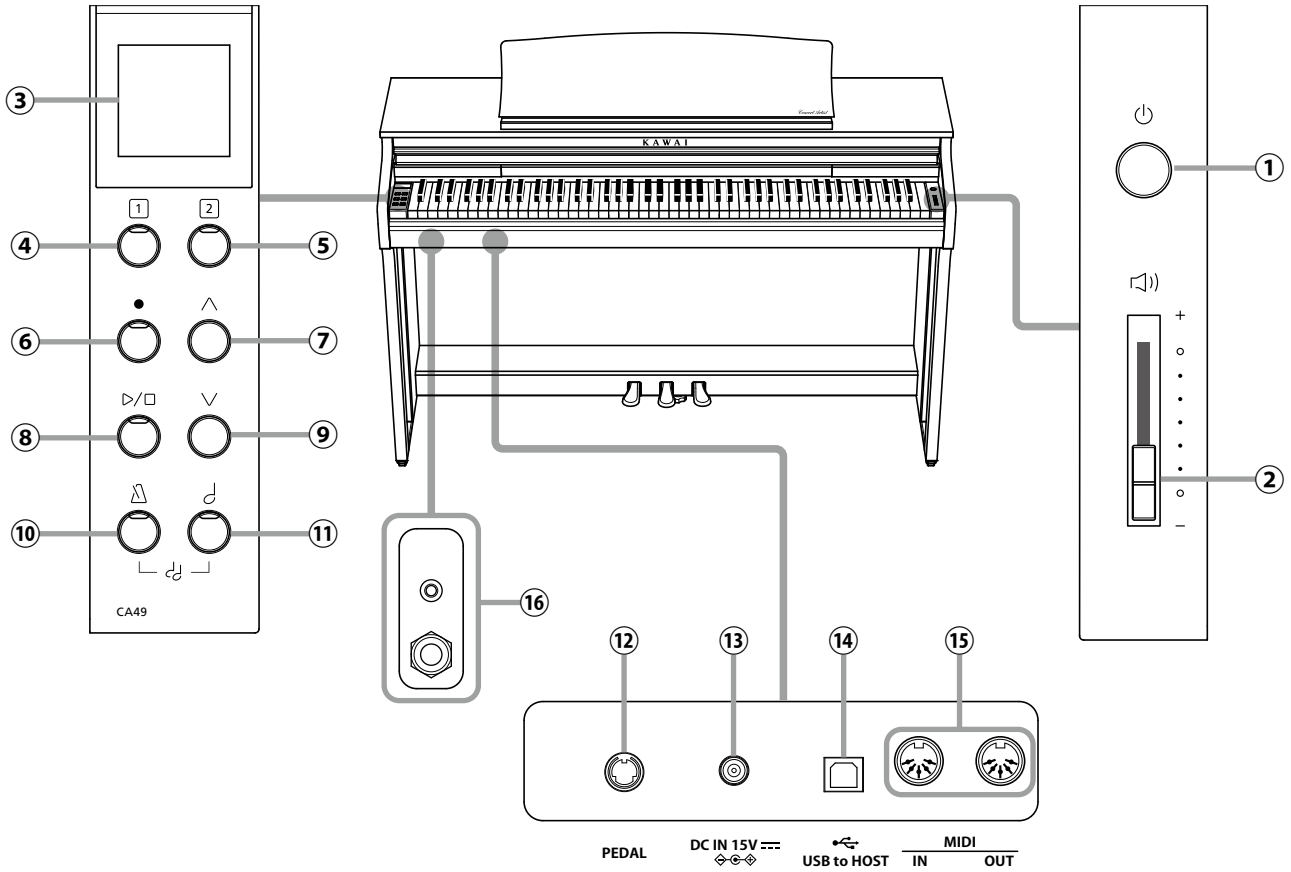
25 **セッティングメニュー**
26 1 リバーブ
27 2 トランスポーズ
28 3 トーンコントロール（ブリリアンス）
29 4 小音量バランス
29 5 チューニング
30 6 タッチカーブ
31 7 おまかせ設定
32 8 ダンパーノイズ
33 9 88 鍵ボリューム
34 10 スタートアップセッティング
35 11 スペイシャル・ヘッドホン・サウンド
36 12 ヘッドホンタイプ
37 13 Bluetooth® MIDI
38 14 オートディスプレイオフ
38 15 オートパワーオフ
39 16 ファクトリーリセット
39 17 表示言語

付　録

40 **困ったときは？**
42 **音色名 / デモソング / コンサートマジック曲一覧**
44 **他の機器との接続**
46 **組み立て方**
50 **仕様**
裏表紙　お問い合わせ先

※ MIDI に関する詳細情報、および操作に関する説明については下記の弊社ホームページより PDF マニュアルをダウンロードしてご覧ください。
https://www.kawai.jp/product/ca49/

各部の機能と名称



① [POWER（パワー）] スイッチ
電源をオン / オフするスイッチです。ご使用後は必ず電源を切ってください。

② [MASTER VOLUME（マスター ボリューム）] スライダー
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調節します。

③ ディスプレイ
機能名や設定値を表示します。
※あらかじめ保護用の透明シートを貼り付けてあります。はがしてからご使用ください。

④ [1] ボタン
表示［1］の機能を選択するのに使用します。

⑤ [2] ボタン
表示［2］の機能を選択するのに使用します。

⑥ [REC（レック）] ボタン
演奏を録音する際などに使用します。

⑦ [UP（アップ）] ボタン
メニュー選択を UP したり、設定値を大きくするのに使用します。

⑧ [PLAY / STOP（プレイ ストップ）] ボタン
本機に内蔵している曲やお客様の演奏を録音したものなどを再生 / 停止する際に使用します。

⑨ [DOWN（ダウン）] ボタン
メニュー選択を DOWN したり、設定値を小さくするのに使用します。

⑩ [METRONOME（メトロノーム）] ボタン
メトロノームのオン / オフやテンポ / 拍子 / 音量を設定します。

⑪ [SOUND SELECT（サウンド セレクト）] ボタン
音色を選択するボタンです。

⑫ [PEDAL（ペダル）] 端子
ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

⑬ [DC IN（ディーシー イン）] 端子
AC アダプターを接続する端子です。

⑭ [USB TO HOST（ユーエスビー トゥー ホスト）] 端子
市販の USB ケーブルでコンピュータと接続すると、MIDI デバイスとして認識され MIDI メッセージを送受信することができます。

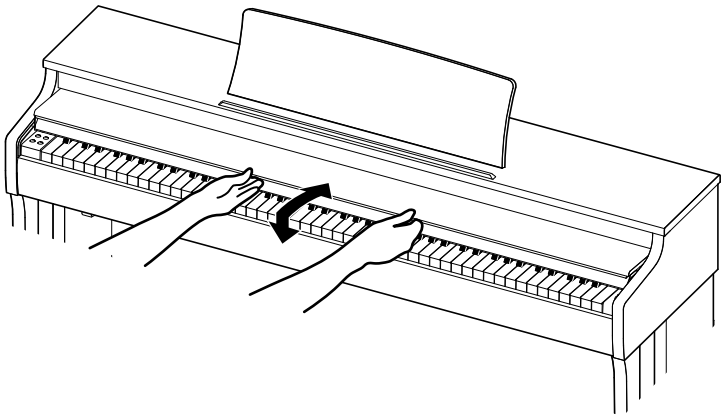
⑮ [MIDI IN / OUT（ミディ イン アウト）] 端子
MIDI 規格に対応している楽器と接続する端子です。

⑯ [PHONES（ホーンズ）] 端子
ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンは 2 つまで接続できます。

鍵盤蓋を開ける / 閉める

鍵盤蓋を開ける

取っ手を両手で軽く持ち上げ、奥に押し込みます。



鍵盤蓋を閉める

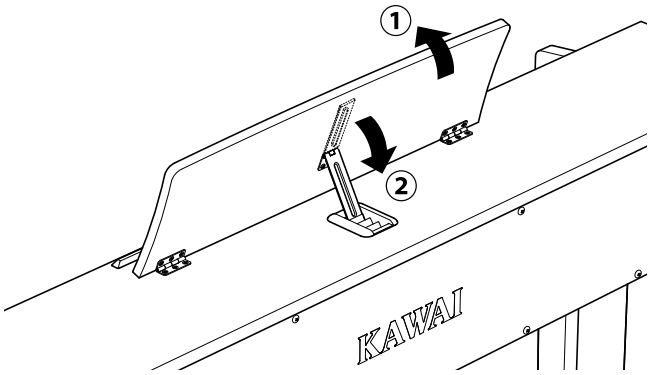
取っ手を両手でゆっくりと手前に引き、下へ静かに降ろします。

※ 勢いよく閉めると指をはさみ、怪我の原因になります。

譜面立てを使う

譜面立てを起こす / 角度を調節する

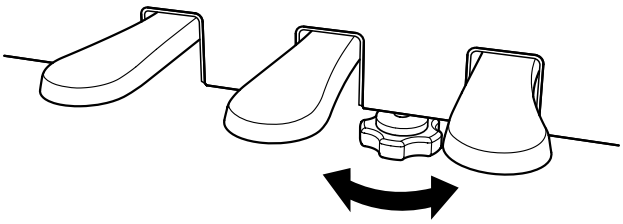
① 譜面立てを手前に起こします。
② 譜面立ての背面の金具を本体上面ホルダーのお好みの場所に固定します。（角度は 3 段階に調節することができます。）



アジャスターの調節

ペダルの下に、アジャスターがついてます。
アジャスターはネジとなっており、回すことで調整できます。
必ずアジャスターがちょうど床についた状態になるように調節してください。

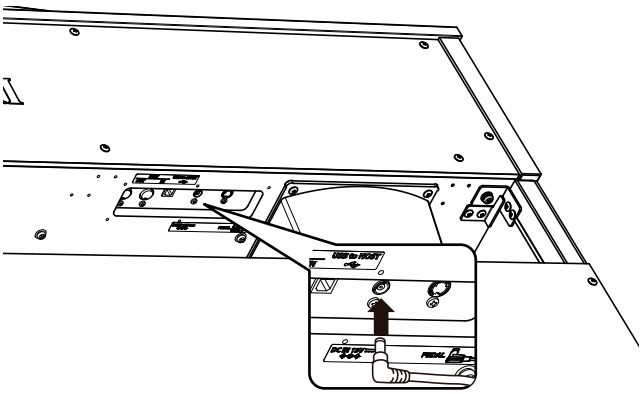
※ アジャスターが浮いた状態で、演奏時にペダルを踏むと、ペダル土台が破損する恐れがあります。



電源を入れる

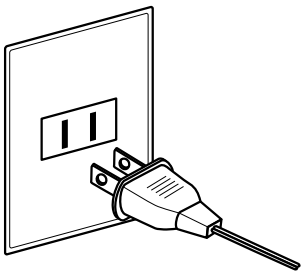
1. AC アダプターを本体に接続する

付属の AC アダプターを、本体底面の［DC IN］端子に差し込みます。



2. 電源コードをコンセントに接続する

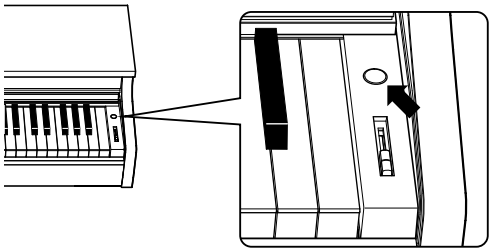
電源コードを AC100V のコンセントに差し込みます。



3. 電源を入れる

［POWER］スイッチを押して電源をオンにします。
［POWER］スイッチを押すと［SOUND SELECT］ボタンが点灯します。

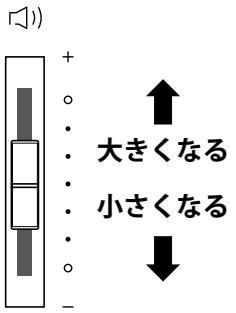
電源を切るときは、もう一度［POWER］スイッチを押します。



音量を調節する / ヘッドホンを使う

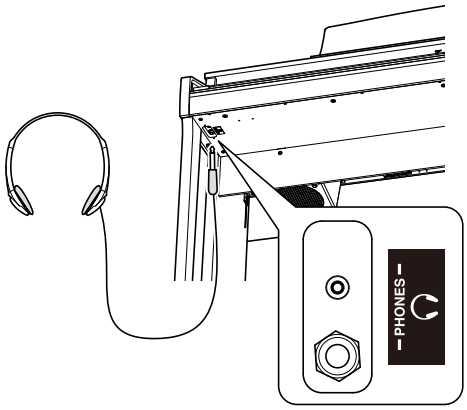
音量を調節する

本体右にある［MASTER VOLUME］スライダーで音量を調節します。上に動かすと音量が大きくなり、下に動かすと小さくなります。
実際に鍵盤を弾いて音を鳴らしながら、音量を調節してください。



ヘッドホンを使う

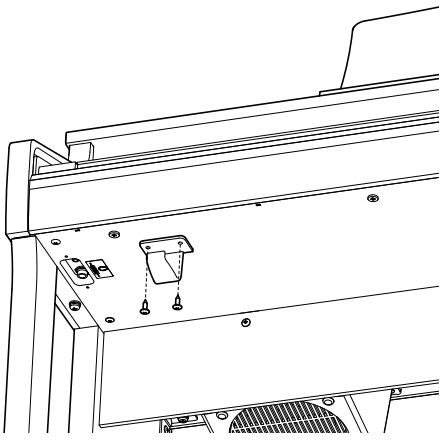
ヘッドホンを本体底面の［PHONES］端子に差し込みます。
ヘッドホンを接続すると、本体スピーカーからは音が出なくなります。



ヘッドホンフックを使う

ヘッドホンを使わないときは、ヘッドホンフックにヘッドホンをかけておくことができます。
ヘッドホンフックを使用する場合は図のように取り付けてください。

※ ヘッドホンフックには、ヘッドホン以外の物をかけないでください。
破損の恐れがあります。



いろいろな音色で演奏する

本機には 19 種類の楽器の音（音色）が内蔵されています。音色の選び方は、2 通りあります。
電源オン時は SK コンサートグランドが選ばれています。

ホーム画面

Bluetooth アイコン
Bluetooth MIDI をオンにすると表示されます。
接続すると反転表示されます。

トランスポーズアイコン
トランスポーズをオンにすると表示されます。

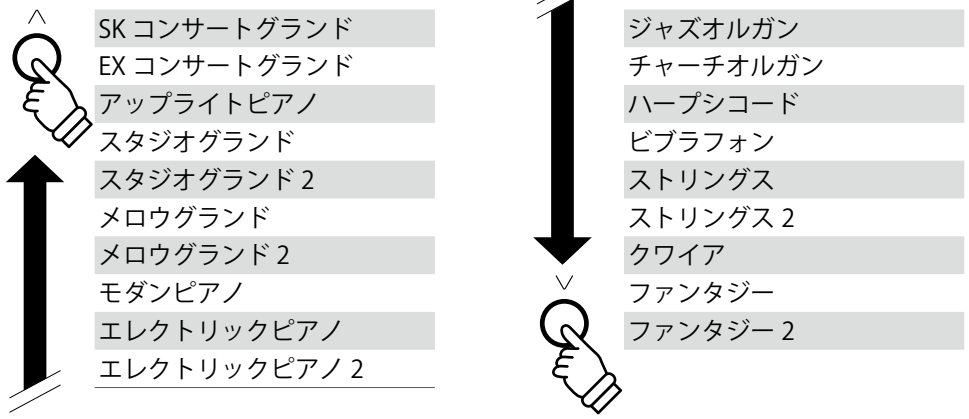


スクロールバー

セッティングメニュー　**ミュージックメニュー**

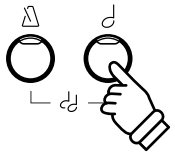
音色の選び方 1

［DOWN］ボタンを押すたび、1 つ次の音色に変更し、
［UP］ボタンを押すたび 1 つ前の音色に変更します。
［UP］と［DOWN］ボタンを同時に押すと、SK コンサートグランドが選ばれます。



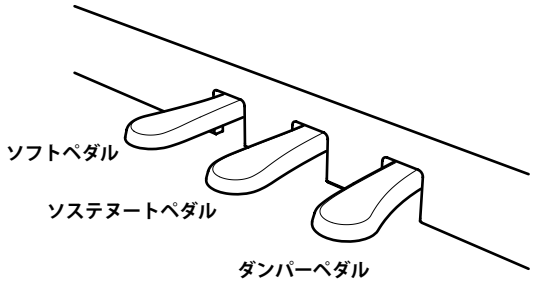
音色の選び方 2

［SOUND SELECT］ボタンを押すと上記の表の順番に音色を変更することができます。
「ファンタジー 2」の音色で
［SOUND SELECT］ボタンを押すと、「SK コンサートグランド」が選ばれます。



ペダルを使う

ペダルにはダンパーペダル / ソステヌートペダル / ソフトペダルがあります。これらはピアノ演奏のときに使われ、次のような効果があります。



ダンパーペダル（右のペダル）

このペダルを踏んで演奏すると鍵盤から手を離しても音が切れずに長く響かせることができます。
踏み具合により余韻の長さを調節することができます（ハーフペダル対応）。

ソフトペダル（左のペダル）

音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。ジャズオルガンを選択しているときは、ロータリー効果のスピード（Slow/Fast）を切り替えることができます。

※ 音色によっては効果がわかりにくいものもあります。

ソステヌートペダル（中央のペダル）

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

グランド・フィール・ペダル・システムについて

本機のペダルに採用されている、グランド・フィール・ペダル・システムは、従来のペダルより荷重が重く、3 本のペダルそれぞれが、よりグランドピアノ EX に近い踏み心地となっています。

デュアル

デュアルは 2 つの音色を重ね合わせる機能で、この機能により音楽表現の幅を広げることができます。
デュアルへの入り方は、次の 2 通りあります。

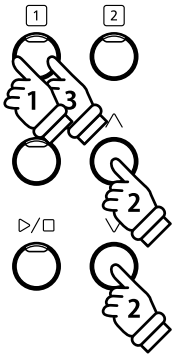
入り方 1

［SOUND SELECT］ボタンと［METRONOME］ボタンを
同時に押します。



入り方 2

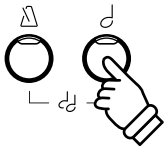
ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンで「デュアル」を選択し、
［1］ボタンを押します。



音色を選ぶ

［SOUND SELECT］ボタンを押すと、音色を変更できるパート
が切り換わります。

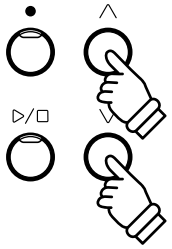




［UP］/［DOWN］ボタンを押すと、選択したパートの音色が
変更されます。
［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと初期設定の音色に戻
ります。

※ 色が反転しているパートを変更できます。

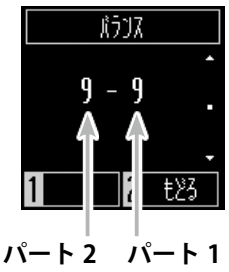
※ 音色は P. 10 に記載されている順に変更できます。



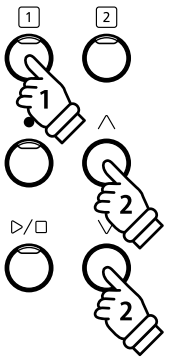
デュアル演奏時の音量バランスを調節する

［1］ボタンを押して、バランス画面を表示します。
［UP］/［DOWN］ボタンを押してバランスを調節することができます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、音量バランスは初期設定の 9-9 に戻ります。



パート 2　パート 1



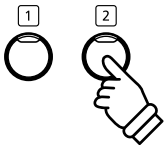
パート 2		パート 1	
9	—	1	パート 1 の音量が最も小さく聞こえるバランス設定です。
⋮		⋮	
9	—	8	⋮
9	—	9	パート 1 とパート 2 の音量が同じ大きさのバランス設定です。
8	—	9	⋮
⋮		⋮	
1	—	9	パート 2 の音量が最も小さく聞こえるバランス設定です。

デュアルを終了する

［SOUND SELECT］ボタンと［METRONOME］ボタンを同時に押すとデュアルを終了します。
または［2］ボタンを押してセッティングメニューに戻ると、デュアルを終了します。


同時に押す

または



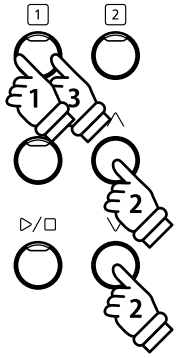
4 ハンズ（連弾演奏）

4 ハンズでは鍵盤の中央のファ（F4）で左右 2 つに分け、それぞれ同じ音域で演奏することができます。このときダンパーペダル（右ペダル）は右側の鍵盤のダンパーペダルとして、ソフトペダル（左ペダル）は左側の鍵盤のダンパーペダルとして動作しますので、2 台のピアノのように使うことができます。

4 ハンズに入る

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入ります。
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「4 ハンズ」を選択し、
［1］ボタンを押して 4 ハンズに入ります。





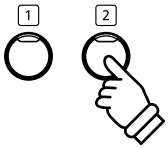
音色変更

［UP］/［DOWN］ボタン、または［SOUND SELECT］ボタンを押して音色を選ぶことができます。
両方の音域が同じ音色に設定されます。
［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと初期音色に戻ります。



4 ハンズを終了する

［2］ボタンを押してセッティングメニューに戻ると、
4 ハンズを終了します。



メトロノームを使う

メトロノームを鳴らしながら練習することができます。

メトロノームのオン / オフ

［METRONOME］ボタンを押すと、ボタンが点灯して、メトロノームが発音します。
再度
［METRONOME］ボタンを押すと、メトロノームが止まり、ボタンが消灯します。

※ 電源オン 時は、1/4 拍子，テンポ 120 の設定になります。





テンポの設定

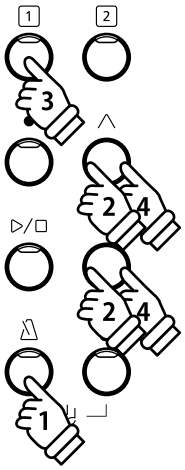
［METRONOME］ボタンを押したあと、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「テンポ」を選択し、
［1］ボタンを押してテンポ設定に入り、
［UP］/［DOWN］ボタンでテンポを設定します。

値は 10 ～ 300 の範囲で設定できます。
値に対応する速度標語も表示されます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の 120 に戻ります。

［2］ボタンを押すとメトロノームメニュー画面に戻ります。
再度
［2］ボタンを押すとホーム画面に戻ります。





ビート（拍子）の設定

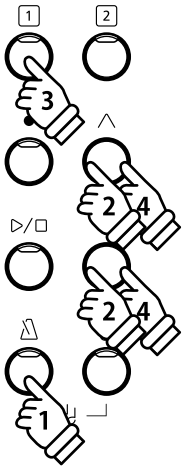
［METRONOME］ボタンを押したあと、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「ビート」を選択し、
［1］ボタンを押してビート設定に入り、
［UP］/［DOWN］ボタンでビートを選択します。
［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと初期設定の 1/4 に戻ります。

ビートは 1/4，2/4，3/4，4/4，5/4，3/8，6/8 より選択することができます。

※ 1/4 選択時には、アクセント音が無いクリック音だけになります。

［2］ボタンを押すとメトロノームメニュー画面に戻ります。
再度
［2］ボタンを押すとホーム画面に戻ります。

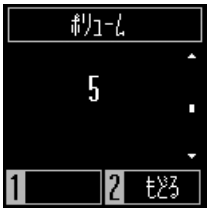


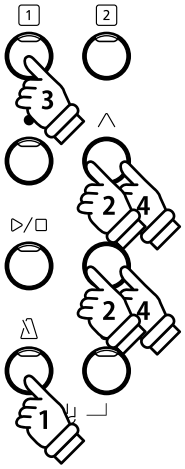


メトロノームを使う

ボリュームの設定

［METRONOME］ボタンを押したあと、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「ボリューム」を選択し、
［1］ボタンを押してボリューム設定に入り、
［UP］/［DOWN］ボタンでボリュームを調節します。





1 ～ 10 の範囲で設定できます。
［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと初期設定の 5 に戻ります。

［2］ボタンを押すとメトロノームメニュー画面に戻ります。
再度
［2］ボタンを押すとホーム画面に戻ります。

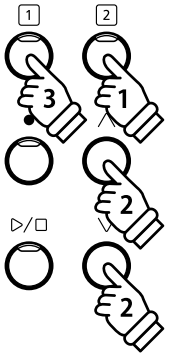
デモソングを聴く

本機には各音色ごとにデモソングを内蔵しています。それぞれの音色にあったデモ演奏をお楽しみください。
内蔵デモソングについてはデモソング一覧（P. 42）をご参照ください。

1. デモソングを聴く・停止する

ホーム画面で
［2］ボタンを押してミュージックメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンで「デモソング」を選択し、
［1］ボタンを押します。

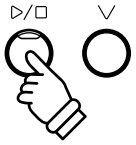




［PLAY/STOP］ボタンを押すと、「SK コンサートグランド」の
デモソングが演奏された後、自動的にランダムに再生されます。

再度
［PLAY/STOP］ボタンを押すと演奏は止まります。

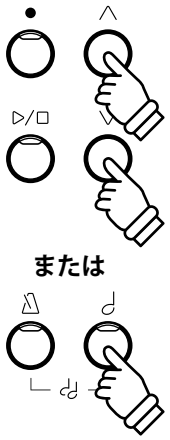




2. デモソングを選択する

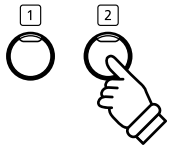
デモソング演奏中、
［UP］/［DOWN］ボタンまたは［SOUND SELECT］ボタンで
音色を選択するとデモソングも同時に変わります。

※ 音色の選び方（P. 10）



3. デモソングを終了する

［2］ボタンを押してミュージックメニューに戻ると、
デモソングを終了します。



1 練習したい曲を選ぶ

本機はバイエル（バリエーション 20 曲を含む 126 曲）、ブルクミュラー 25 の練習曲（25 曲）、チェルニー 30 の練習曲（30 曲）、ショパンワルツ（19 曲）を全曲内蔵しています。
レッスンを使ってできることと練習したい曲を選ぶ方法を説明します。

※ 練習するための楽譜はカワイ出版、全音楽譜出版社のものをご使用ください。

レッスン曲集

1. バイエルピアノ教則本　全曲　（ただし予備練習、付録を除く）　（カワイ出版）
2. ブルクミュラー 25 の練習曲　全曲　（カワイ出版）
3. チェルニー 30 の練習曲　全曲　（カワイ出版）
4. ショパン・ワルツ集　全曲（全音楽譜出版社）

レッスンを使って

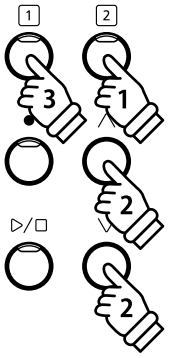
レッスン曲集から 1 曲を選んで次のような練習ができます。

1. レッスン曲を再生して曲想を覚える。
2. レッスン曲の左手（右手）パートを再生しながら右手（左手）パートを練習する。
3. テンポを変更して練習する。

1. レッスンに入る

ホーム画面で
［2］ボタンを押してミュージックメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「レッスン」を選択し、
［1］ボタンを押してレッスンに入ります。



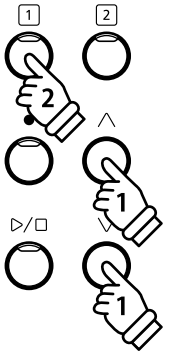


2. 曲集を選択する

練習したい曲集を選びます。
［UP］/［DOWN］ボタンで曲集を選択し、
［1］ボタンを押して曲選択に入ります。

※ レッスン曲集（P. 18）

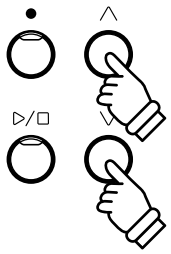




3. 曲を選択する

［UP］/［DOWN］ボタンで曲を選択します。





バイエルのバリエーション

バイエルは全部で 106 番まであり、そのうち 1 番と 2 番にはバリエーションがそれぞれ 12 曲と 8 曲ずつあります。

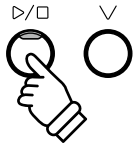
バイエルの構成	
1 番	テーマ
1-1 ～ 1-12	バリエーション
2 番	テーマ
2-1 ～ 2-8	バリエーション
3 番	
4 番	
⋮	
106 番	

2 レッスン曲を聴く

内蔵されているレッスン曲を聴く方法を説明します。

1. レッスン曲を聴く

（曲選択は前ページを参照）
［PLAY/STOP］ボタンを押すと［PLAY/STOP］ボタンが点灯し、カウントが 1 小節鳴ったあと、レッスン曲が再生されます。
※ 音色は自動的に SK コンサートグランドになります。



［PLAY/STOP］ボタンをもう一度押すとレッスン曲の再生が止まります。
再度
［PLAY/STOP］ボタンを押すと、2 小節前から再生が始まります。

（次ページへ続く）

（前ページからの続き）

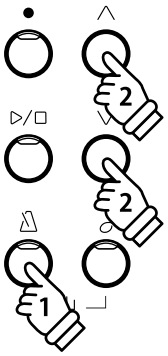
最初から再生したい場合には、
［PLAY/STOP］ボタンを押して再生を止めたあと、
［PLAY/STOP］ボタンを 1 秒以上押すか、選曲し直します。

レッスン曲再生中はメトロノームが再生されませんが、メトロノームを鳴らしたい場合には、
［METRONOME］ボタンを押します。
曲に応じた拍子が鳴ります。



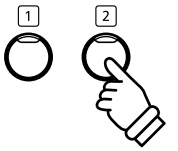
レッスン曲のテンポを変更して聴きたい場合には、
［METRONOME］ボタンを押してテンポを表示し、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して、テンポの設定をします。

元のテンポに戻す場合は、
［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押します。



2. レッスンを終了する

［2］ボタンを 2 回押してミュージックメニューに戻ると、
レッスンを終了します。



2 回押す

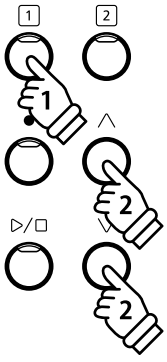
3 片手ずつ練習する

レッスン曲を聴きながら右手、左手別々に練習する方法を説明します。

パートの選び方

レッスンに入り、曲を選択したあと
［1］ボタンを押して、パートに入ります。
［UP］/［DOWN］ボタンを押して再生するパートを
「左手＆右手」
「左手」
「右手」
から選択します。





コンサートマジック

1 コンサートマジックとは？

コンサートマジックは、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする機能です。本機にはコンサートマジック曲を 50 曲内蔵しています。曲名についてはコンサートマジック曲一覧（P. 43）をご参照ください。

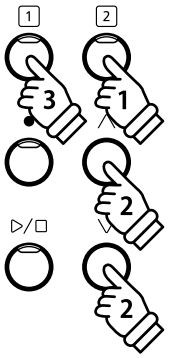
2 コンサートマジック曲を演奏する

内蔵のコンサートマジック曲の選択と演奏方法を説明します。

1. コンサートマジックに入る

ホーム画面で
［2］ボタンを押してミュージックメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「コンサートマジック」を選択し、
［1］ボタンを押します。

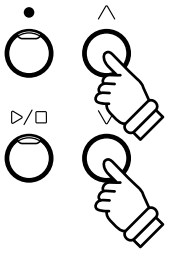




2. 曲を選択する

コンサートマジックで
［UP］/［DOWN］ボタンを押して曲を選択します。

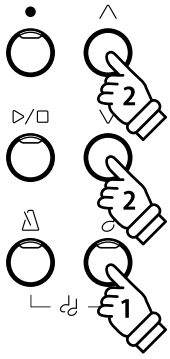




3. コンサートマジックを楽しむ

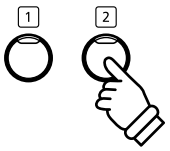
鍵盤を弾いてみましょう。
どの鍵盤でも拍子をとるように押せば演奏を進めることができます。鍵盤を弾く強さによって強弱や、テンポの変化をつけることもできます。

［SOUND SELECT］ボタンを押したあと、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して音色を変更することができます。



4. コンサートマジックを終了する

［2］ボタンを押してミュージックメニューに戻ると、コンサートマジックを終了します。



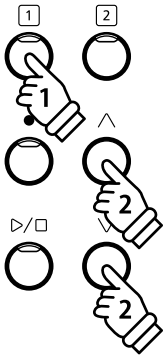
3 コンサートマジック曲を聴く

コンサートマジック曲は、普通のデモソングとして再生することができます。どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

▌曲を聴く

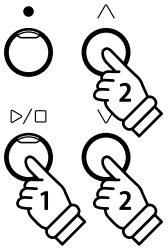
コンサートマジックで
［1］ボタンを押してデモ選択に入り、
［UP］/［DOWN］ボタンで再生の仕方を選択します。



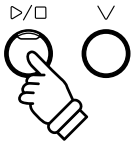


デモモード	再生方法
オール	1 曲目から 50 曲目まで順番に繰り返し再生します。
リピート	選択した曲を繰り返し再生します。
カテゴリー	選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。
ランダム	ランダムに曲が選択され再生します。

［PLAY/STOP］ボタンを押すと、選んだデモモードで再生されます。
［UP］/［DOWN］ボタンで曲を選べます。



再度
［PLAY/STOP］ボタンを押して、演奏を止めます。



※ コンサートマジック曲集（P. 43）

演奏を録音する

本機は本体に 3 曲（3 ソング）まで録音することができます。

1. レコーダーに入る

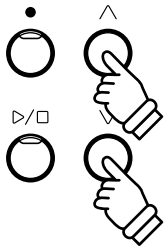
［REC］ボタンを押すとレコーダーに入り、［REC］ボタンが点滅します。





2. ソングを選ぶ

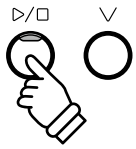
レコーダーで
［UP］/［DOWN］ボタンを押してソングを選びます。
すでに録音されているソングに録音すると、以前まであった演奏データが消去されて新しい演奏データが上書きされます。



3. 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。
このとき［REC］ボタンと［PLAY/STOP］ボタンが点灯します。

また、
［PLAY/STOP］ボタンを押して録音を開始することもできます。

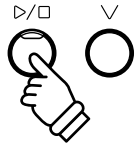


4. 録音をストップする

［PLAY/STOP］ボタンを押して録音を終了します。
［PLAY/STOP］ボタンと［REC］ボタンが消灯し録音が終了します。

録音されたソングには「✳」が表示されます。





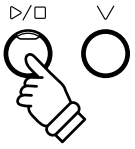
録音した演奏を再生する

録音した曲を再生しましょう。

ホーム画面で
［PLAY/STOP］ボタンを押すと、選択されている曲が録音済みの場合は再生を開始します。

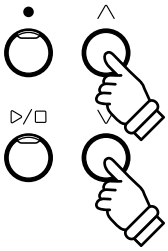
※［REC］ボタンが点滅している場合は、
もう一度［REC］ボタンを押して消灯させてから、
［PLAY/STOP］ボタンを押してください。





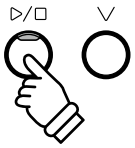
■聴きたいソング番号を選ぶ

［UP］/［DOWN］ボタンを押して、録音済みの中から聴きたい曲を選択します。



■再生する

［PLAY/STOP］ボタンを押すと点灯し、再生がスタートします。



再度
［PLAY/STOP］ボタンを押すと再生が停止します。

※［METRONOME］ボタンを押して、テンポを変更できます。
（テンポの設定　P. 15）

※ メトロノームで設定されたテンポは録音データに記録されません。
録音時と再生時のテンポ設定が異なるとメトロノームの発音に関わらず再生スピードが変わります。

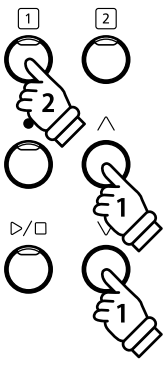
録音した演奏を消去する

本機に録音した演奏を消去する方法を説明します。

■録音した演奏を消去する

レコーダーで
［UP］/［DOWN］ボタンを押して、消去したい曲を選択します。
［1］ボタンを押すと選択した曲の消去が行われます。





セッティングメニュー

演奏を楽しむためにさまざまな設定をすることができます。

セッティングメニュー

セッティングメニューで表示される内容と初期設定は以下のとおりです。

	設定項目	初期設定	参照ページ
1	リバーブ	ー	P. 26
2	トランスポーズ	0	P. 27
3	トーンコントロール	フラット	P. 28
4	小音量バランス	3	P. 29
	デュアル	1：SK グランド　2：ストリングス 2	P. 12
	4 ハンズ	ー	P. 14
5	チューニング	440.0Hz	P. 29
6	タッチカーブ	ノーマル	P. 30
7	おまかせ設定	ノーマル	P. 31
8	ダンパーノイズ	5	P. 32
9	88 鍵ボリューム	オフ	P. 33
10	スタートアップセッティング	ー	P. 34
11	スペイシャル HP サウンド	ノーマル	P. 35
12	ヘッドホンタイプ	ノーマル	P. 36
13	Bluetooth MIDI	オン	P. 37
	MIDI セッティング		MIDI セッティングの詳細は弊社ホームページをご覧ください。
14	オートディスプレイオフ	5 分	P. 38
15	オートパワーオフ	ー	P. 38
16	ファクトリーリセット	ー	P. 39
17	表示言語	ニホンゴ	P. 39

1 リバーブ

リバーブを加えると、音に残響効果が加わりコンサートホールで演奏しているような深みのある美しい響きが得られます。各音色はあらかじめ最適なリバーブが設定されています。

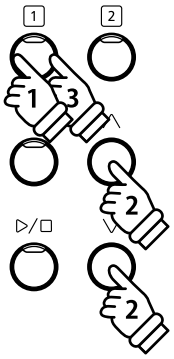
リバーブの種類

種類	効果
オフ	リバーブはかかりません。
ルーム	室内での残響を再現した効果です。
ラウンジ	ラウンジでの残響を再現した効果です。
スモールホール	小ホールでの残響を再現した効果です。
コンサートホール	クラシック向け大ホールでの残響を再現した効果です。
ライブホール	ライブ向け大ホールでの残響を再現した効果です。
カテドラル	大聖堂での残響を再現した効果です。

リバーブの選択

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「リバーブ」を選択し、
［1］ボタンを押してリバーブ選択に入ります。

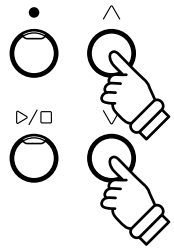




［UP］/［DOWN］ボタンを押して「リバーブ」の種類を設定します。
リバーブは各音色ごとに設定できます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、各音色の初期設定に戻ります。





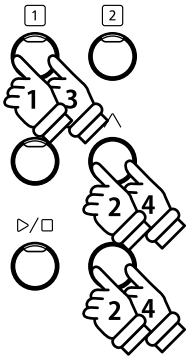
2 トランスポーズ

トランスポーズとは半音単位で調を変えることです。キー（調）の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。

トランスポーズの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「トランスポーズ」を選択し、
［1］ボタンを押してトランスポーズに入ります。





［UP］/［DOWN］ボタンでトランスポーズを設定します。
※ -12 ～ +12 の範囲で設定できます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の 0 に戻ります。

3 トーンコントロール（ブリリアンス）

トーンコントロールによって、演奏や設置場所に応じて適した音質に設定することができます。

トーンコントロールの種類

種類	効果
フラット	トーンコントロールはかかりません。
ブリリアンス	音色の明るさを調節します。
バスブースト	低音を強調した音質です。
バスカット	低音を弱くした音質です。
ミッドブースト	中音域が目立つような、少し硬い音質です。
ラウドネス	小さい音量時でも通常音量時のような適切な音質が得られます。
ブライト	きらびやかな明るい音質です。
メロウ	落ち着いた柔らかい音質です。

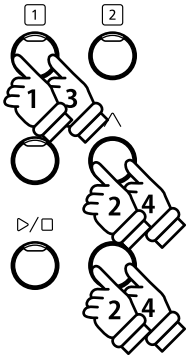
トーンコントロールの種類変更

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「トーンコントロール」を選択し、
［1］ボタンを押してトーンコントロール選択に入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンで「トーンコントロール」の種類を設定します。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定のフラットに戻ります。





ブリリアンスの設定

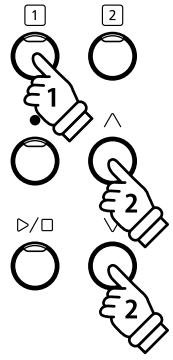
トーンコントロールの種類の 1 つ「ブリリアンス」を選択した場合、「ブリリアンス」のかかり具合を設定できます。

「トーンコントロール」の「ブリリアンス」を選択した場合、
［1］ボタンを押して、ブリリアンスの設定をします。

［UP］/［DOWN］ボタンでブリリアンスを設定します。
ブリリアンス値の設定できる範囲は［− 10 〜+ 10］です。
値が大きくなるほど音色が明るくなります。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、ブリリアンスは初期設定の 0 に戻ります。





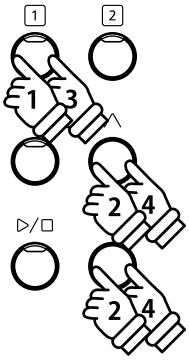
4 小音量バランス

マスターボリュームで音量を小さくしたとき、タッチによる音量変化を減らし、弱打演奏で音が聞こえなくなってしまうことを防ぐ機能です。

▌小音量バランスの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「小音量バランス」を選択し、
［1］ボタンを押して確定します。





［UP］/［DOWN］ボタンでバランスを設定します。
「1」～「5」,「オフ」の範囲で設定できます。
タイプの数字が大きくなるほどボリュームを絞ったときの弱打の音量が大きくなります。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の「3」に戻ります。

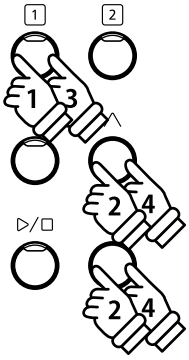
5 チューニング

チューニングとは他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。合奏のときや CD の再生に合わせて演奏するときなど、音程を合わせたいときに使用します。
電源オン時は 440.0Hz に設定されており、0.5Hz 単位で設定できます。

▌チューニングの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「チューニング」を選択し、
［1］ボタンを押してチューニングに入ります。





［UP］/［DOWN］ボタンでチューニングを設定します。
※ 427 ～ 453Hz の範囲で設定できます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の 440.0Hz に戻ります。

6 タッチカーブ

鍵盤を弾く強さに応じて、音の強弱を変えることが出来ます。

※鍵盤そのものの重さや手応えが変わるわけではありません

種類	効果
ライト	弱いタッチで弾いても大きな音が出ます。
ノーマル	アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
ヘビー	強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
オフ	タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。

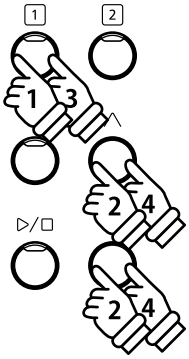
タッチカーブの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「タッチカーブ」を選択し、
［1］ボタンを押してタッチカーブに入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンでタッチカーブの種類を選択します。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定のノーマルに戻ります。





7 おまかせ設定

おまかせ設定を選ぶことで、簡単に様々なピアノ調整を楽しむことができます。

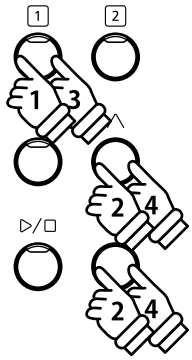
おまかせ設定を選択する

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「おまかせ設定」を選択し、
［1］ボタンを押しておまかせ設定に入ります。



［UP］/［DOWN］ボタンで種類を選択します。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定のノーマルに戻ります。



おまかせ設定の種類

名称	説明
ノーマル	おまかせ設定の初期設定です。
ノーノイズ	ダンパーペダルを踏んだときの「シャーン」という音や、鍵盤を離したときの「ゴト」という音を消した設定です。
ディープレゾナンス	ダンパーペダルを踏みながら音を出したときの響きや、弦の共鳴等をより深くした設定です。
レスレゾナンス	ダンパーペダルを踏みながら音を出したときの響きや、弦の共鳴等を抑えた設定です。
ソフト	ハンマーを柔らかく調整し、鍵盤のタッチを重めにすることで響きをソフトにした設定です。落ち着いた曲や静かな曲に適しています。
ブリリアント	ハンマーを固めに調整し、ダンパーやピアノ本体等の響きを明るくした設定です。明るく華やかな曲、よく響かせたい曲に適しています。
クリーン	ハンマーを固めに調整し、鍵盤のタッチを軽くすることで響きをすっきりとさせた設定です。
ストロング	ハンマーの反応を強めて、各種ノイズや響きを強めにした設定です。抑揚のあるダイナミックな曲に適しています。
グルーミー	ハンマーを柔らかめに調整し、鍵盤のタッチを重くすることで独特な薄暗い響きを持たせた設定です。
リッチ	ハンマーの反応を強めて鍵盤を軽めにし、響きを豊かにした設定です。
ヒストリカル	「古典派」から「ロマン派」にかけての時代に使われたピアノを再現した設定です。

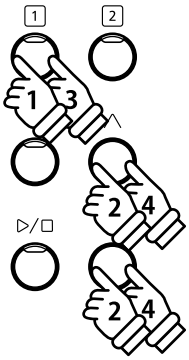
8 ダンパーノイズ

ダンパーペダルを踏んだときに発生する共鳴ノイズの音量を調節できます。

ダンパーノイズの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「ダンパーノイズ」を選択し、
［1］ボタンを押してダンパーノイズに入ります。





［UP］/［DOWN］ボタンで音量を設定します。

※ 0 ～ 10 の範囲で設定できます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の 5 に戻ります。

9 88 鍵ボリューム

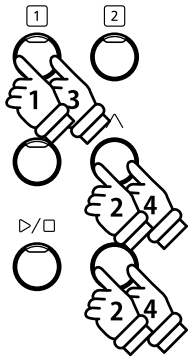
88 鍵ボリュームでは、88 個の鍵盤それぞれのボリューム調節を行うことができます。

88 鍵ボリュームの設定に入る

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「88 鍵ボリューム」を選択し、
［1］ボタンを押して 88 鍵ボリュームに入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンでオンを選択すると、以下で設定する 88 鍵ボリューム設定が有効になります。



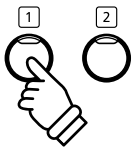


88 鍵ボリュームを設定する

1. 鍵盤を指定する

88 鍵ボリュームで
［1］ボタンを押してボリューム設定画面を開き、ボリューム調節を行いたい鍵盤を押して指定します。

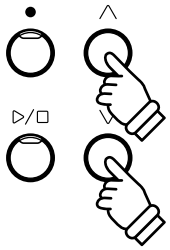




2. ボリュームを設定する

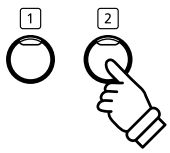
［UP］/［DOWN］ボタンでボリュームを設定します。
※ -50 ～ +50 の範囲で設定できます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の 0 に戻ります。



88 鍵ボリュームの設定を終了する

［2］ボタンを押して終了します。
設定したボリューム値が自動的に保存され、次回電源を入れたときも 88 鍵ボリュームをオンにすると適用されます。



10 スタートアップセッティング

本機は自分の好みの設定を本体に記憶することで、電源を入れ直してもその設定で演奏することができます。この機能をスタートアップセッティングと言います。記憶される内容は以下のとおりです。

スタートアップセッティングに記憶される内容

セッティングメニューで設定した内容
デュアルの設定、4 ハンズの設定内容
メトロノームのテンポ、ビート、ボリューム
音色

※ Bluetooth、オートパワーオフは自動的に保存されます。

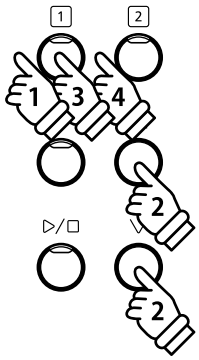
スタートアップセッティングを実行する

ホーム画面で
[1] ボタンを押してセッティングメニューに入り、
[UP]/[DOWN]ボタンを押して「スタートアップセッティング」を選択し、
[1] ボタンを押してスタートアップセッティングに入ります。

スタートアップセッティングを実行する場合、
[1] ボタンを押します。

スタートアップセッティングが完了すると、セッティングメニューに戻ります。





11 スペイシャル・ヘッドホン・サウンド

まるでアコースティックピアノを弾いているような立体感 / 臨場感のあるサウンドをイヤホンやヘッドホンで再現するのが「スペイシャル・ヘッドホン・サウンド」です。イヤホンやヘッドホンを装着していても聴感上の違和感が少なく、長時間演奏しても聴き疲れしにくくなります。

※ ディスプレイ上では「スペイシャル HP サウンド」と表示されます。

スペイシャル・ヘッドホン・サウンドの種類

名称	説明
オフ	効果をかけない状態です。
フォワード	前方の広がりを強調した立体感が得られます。
ノーマル	全方向バランスのとれた立体感が得られます。
ワイド	左右の広がりを強調した立体感が得られます。

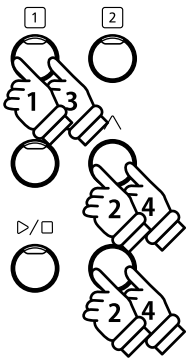
スペイシャル・ヘッドホン・サウンドの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「スペイシャル HP サウンド」を選択し、
［1］ボタンを押してスペイシャル HP サウンドに入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンで種類を選択します。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定のノーマルに戻ります。





12 ヘッドホンタイプ

ヘッドホンには大きく分けて〝オープンタイプ / クローズタイプ / セミオープンタイプ / インナーイヤー / カナル〟という 5 つのタイプがあります。本機では、これら 5 つのタイプそれぞれの特長に合わせた専用の設定を内蔵していますので、お持ちのヘッドホンに最適な音で演奏することが可能です。

ヘッドホンタイプの種類

名称	説明
ノーマル	ヘッドホン専用の設定がされていない状態です。
オープン	オープン（開放）タイプのヘッドホンに適した設定です。
セミオープン	セミオープン（半開放）タイプのヘッドホンに適した設定です。
クローズ	クローズ（密閉）タイプのヘッドホンに適した設定です。
インナーイヤー	インナーイヤータイプのヘッドホンに適した設定です。
カナル	カナルタイプのヘッドホンに適した設定です。

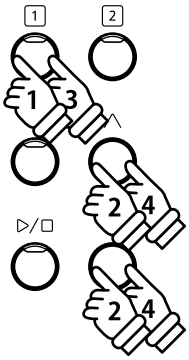
ヘッドホンタイプの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「ヘッドホンタイプ」を選択し、
［1］ボタンを押してヘッドホンタイプに入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンでタイプを選択します。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定のノーマルに戻ります。



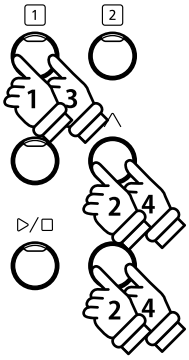


13 Bluetooth® MIDI

本機はスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと無線で繋げることが可能です。専用アプリケーションをスマートデバイスにインストールすると、本機をアプリケーションから操作したり、MIDI データの送受信をすることができます。

Bluetooth MIDI のオン / オフを切り替える





ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「Bluetooth MIDI」を選択し、
［1］ボタンを押して Bluetooth MIDI に入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンでオン / オフを選択します。

Bluetooth MIDI をオンにした状態で、本機の周辺でスマートデバイスのアプリケーションの Bluetooth 機能をオンにすると、接続候補として「CA49」が表示されますので、タップして接続してください。

※ アプリケーションのご使用前に、下記の弊社ホームページより各アプリケーションの最新の対応状況・動作環境情報を必ずご確認ください。
https://www.kawai.jp/product/ca49/

※ スマートデバイスの周辺に本機が複数ある場合は、接続する機器のみの Bluetooth MIDI をオンにしてください。

※ スマートデバイスと接続している状態では、本機の USB MIDI および MIDI 端子は使用できません。

※ Bluetooth（Ver4.1 GATT 対応）/Bluetooth Low Energy MIDI Specification に準拠しています。

14 オートディスプレイオフ

有機 EL ディスプレイは長時間同じ画面を表示し続けると、ディスプレイに焼き付きが生じる場合があるため、本機ではボタン操作をしていない状態が続いた場合、ディスプレイを自動で「オフ」にする設定を行うことができます。

※　表示はいずれかの操作ボタンを押すと、再表示されます。

■オートディスプレイオフの設定

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「オートディスプレイオフ」を選択し、
［1］ボタンを押してオートディスプレイオフに入ります。

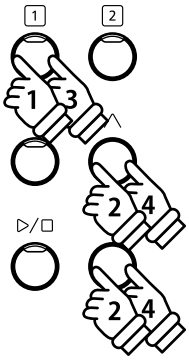
［UP］/［DOWN］ボタンで時間を設定します。

※ 15 秒、5 分、30 分から選択できます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定の 5 分に戻ります。

ディスプレイがオフになった場合、いずれかの操作ボタンを押すと、再びディスプレイはオンになります。





15 オートパワーオフ

本機では、何も操作していない状態が続いた場合、電源を自動で切る設定を行うことができます。

■オートパワーオフの設定内容

種類	内容
オフ	電源が切れない設定です。
15 min.	15 分何も操作していない状態が続くと自動で本機の電源が切れます。
60 min.	60 分何も操作していない状態が続くと自動で本機の電源が切れます。
120 min.	120 分何も操作していない状態が続くと自動で本機の電源が切れます。

■オートパワーオフに入る

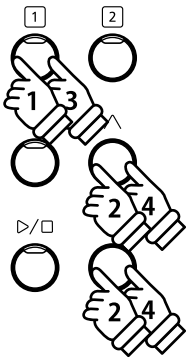
ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「オートパワーオフ」を選択し、
［1］ボタンを押してオートパワーオフに入ります。

［UP］/［DOWN］ボタンで時間を設定します。

※ ここで設定した時間は、自動的に保存され、次回電源をオンしたときも適用されます。

［UP］/［DOWN］ボタンを同時に押すと、初期設定のオフに戻ります。





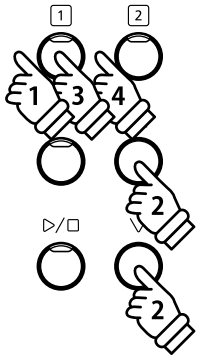
16 ファクトリーリセット

ファクトリーリセットを行うとスタートアップセッティングの設定内容、オートパワーオフの設定内容、88 鍵ボリュームの設定内容を全て初期化し、購入時の設定に戻すことができます。

ファクトリーリセットを実行する

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「ファクトリーリセット」を選択し、
［1］ボタンを押します。





ファクトリーリセットで
［1］ボタンを押すと、ファクトリーリセットを実行します。



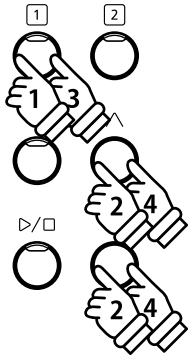
ファクトリーリセットが完了すると、セッティングメニューに戻ります。



17 表示言語

ホーム画面で
［1］ボタンを押してセッティングメニューに入り、
［UP］/［DOWN］ボタンを押して「表示言語」を選択し、
［1］ボタンを押して表示言語に入ります。





［UP］/［DOWN］ボタンでニホンゴ / エイゴを選択します。

困ったときは？

サービス窓口にご相談になる前に、以下をご参照ください。

・下記「困ったときは？」

・弊社ホームページ「よくあるご質問」（https://www.kawai.jp/support_faq/sfc/ep/）

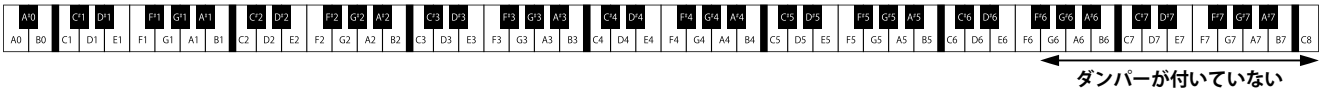
それでも問題が解決しない場合にはお買い求めいただいた販売店、もしくは修理受付窓口にお問い合わせください。

電源（セッティング）

症状	原因・対応	参照
電源が入らない	→ コンセント、AC アダプター、楽器本体のコネクターがそれぞれ正しく接続されているかご確認ください。	P. 8
電源が突然切れた いつの間にか切れていた	→「オートパワーオフ」で電源を自動で切る設定をしていないかご確認ください。	P. 38
画面が突然消えた	→ 設定した時間が経過すると自動でディスプレイが消えますが、いずれかの操作ボタンを押すと再表示されます。	P. 38

音・演奏

症状	原因・対応	参照
音が出ない	→ 音量が最小になっていないかご確認ください。 → ヘッドホンやヘッドホン変換プラグが［PHONES］端子に差したままになっていないかご確認ください。 → ローカルコントロールがオフになっていないかご確認ください。	P. 9
特定の演奏、特定の音域で 音が歪む	ボリュームを大きくすると演奏によって音が歪む場合があります。 → この場合には音量を小さくしてご使用ください。	
特定のピアノ音色で 音程や音質がおかしい	内蔵のピアノ音色は、ピアノ本来の音を可能な限り忠実に再現しています。ピアノ音は複雑な響きを持っているため、聴く位置や環境によって音の感じ方が変わります。また単音で強打した場合と曲の流れの中で弾いた場合でも音の感じ方は変わります。そのため音域によっては倍音が強く聴こえ、音程や音質が異質に感じられる場合があります。 → この場合異常ではありません。	
鍵盤によって音量が違う	→ 88 鍵ボリュームで気になる鍵盤の音量を調節してご使用ください。	P. 33
ダンパーペダルを踏んでいないのに高音域の音が伸びる	→ 異常ではありません。 ピアノでは一番高い領域の鍵盤（下図）にはダンパーという止音装置がついていません。 本機ではその機構を忠実に再現しているため、その鍵盤についてはダンパーペダルを踏んでいなくても音が伸びます。	



ペダルが効かない 効いたり、効かなかったりする	→ ペダルコードと本体が正しく接続されているかご確認ください。 接続されている場合でも、一度抜いてしっかりと差し直してください。 → アジャスターが適正な高さに調節されているかご確認ください。	P. 11
ペダルを踏むとぐらぐらする	→ アジャスターが適正な高さに調節されているかご確認ください。	P. 11

操作

症状	原因・対応	参照
レッスン曲がスタートしない	→ 曲を選んだあと、［PLAY/STOP］ボタンを押してください。	P. 19

接続

症状	原因・対応	参照
スマートデバイスと接続できない	→ 本機の Bluetooth 機能がオンになっていることをご確認ください。 → スマートデバイスの Bluetooth 設定ではなく、アプリケーション内の設定から接続してください。	
接続したスマートデバイスが繋がらない	→ 接続してもすぐに切れてしまう場合は、スマートデバイス側の Bluetooth 設定を一度オフにし、再度オンにして接続し直してください。	
内蔵曲の演奏データが送信されない	→ 内蔵曲の演奏データは Bluetooth MIDI から出力されません。	

音色名 / デモソング / コンサートマジック曲一覧

音色名 / デモソング

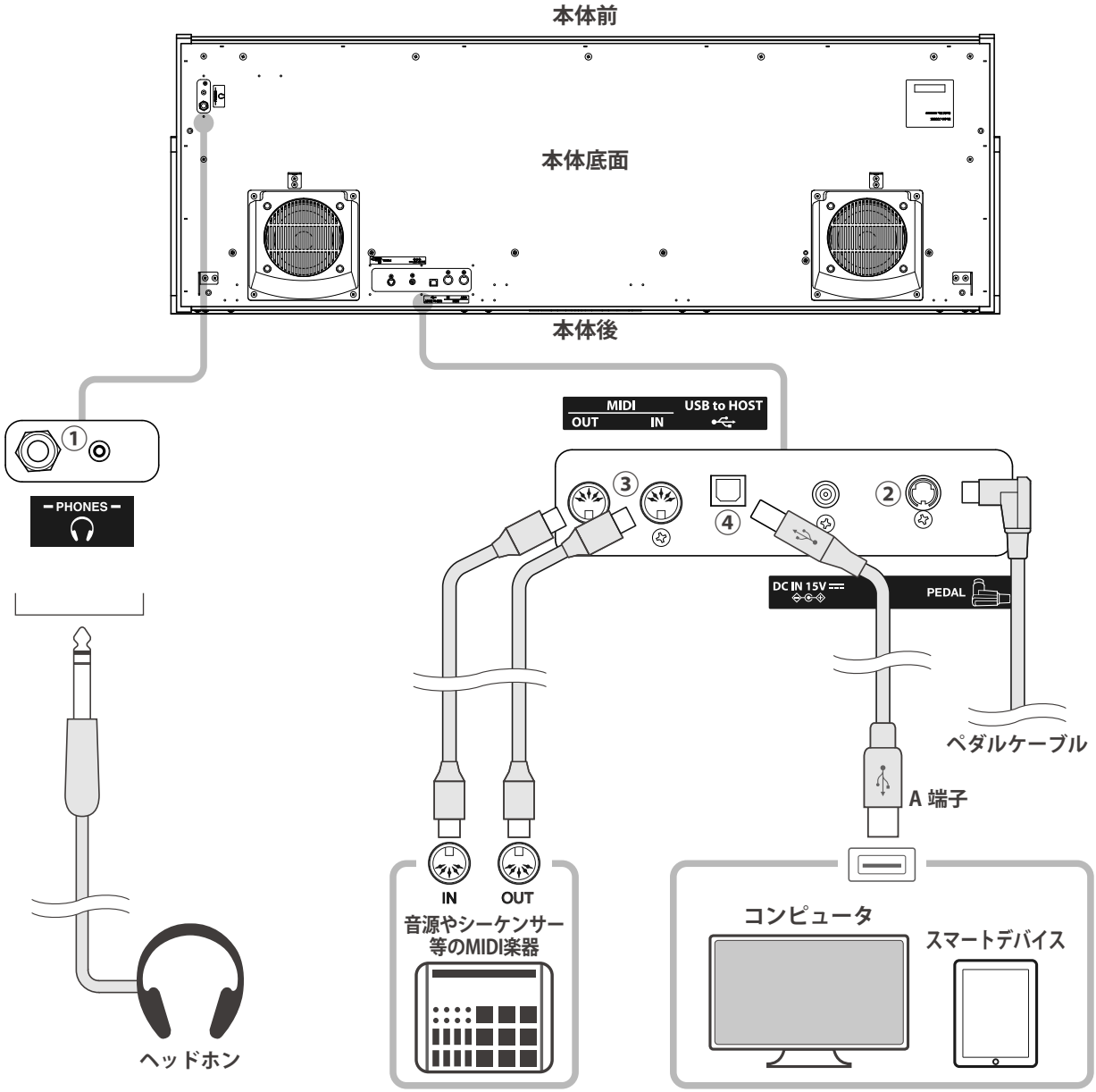
音色名	曲名	作曲者名
SK コンサートグランド	ラ・カンパネラ	リスト
EX コンサートグランド	ハンガリー狂詩曲第 6 番	リスト
アップライトピアノ	アルプスの夕映え	エステン
スタジオグランド	オリジナル	カワイ
スタジオグランド 2	オリジナル	カワイ
メロウグランド	ソナタ第 30 番	ベートーベン
メロウグランド 2	亜麻色の髪の乙女	ドビュッシー
モダンピアノ	オリジナル	カワイ
エレクトリックピアノ	オリジナル	カワイ
エレクトリックピアノ 2	オリジナル	カワイ
ジャズオルガン	オリジナル	カワイ
チャーチオルガン	コラール前奏曲“目覚めよ、と呼ぶ声あり”	バッハ
ハープシコード	フランス組曲第 6 番	バッハ
ビブラフォン	オリジナル	カワイ
ストリングス	四季“春”	ヴィヴァルディ
ストリングス 2	オリジナル	カワイ
クワイア	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
ファンタジー	オリジナル	カワイ
ファンタジー 2	オリジナル	カワイ

コンサートマジック曲

	曲名	作曲者名
	映画 / アニメ	
1	アンパンマンのマーチ	三木たかし
2	夢をかなえてドラえもん	黒須克彦
3	となりのトトロ	久石譲
4	崖の上のポニョ	久石譲
5	レット・イット・ゴー ～ありのままで～	K. アンダーソン、R. ロペス
6	アンダー・ザ・シー	A. メンケン
7	ミッキーマウスマーチ	J. ドッド
8	ハイ ホー	F. チャーチル
9	狼なんかこわくない	F. チャーチル
	日本の歌	
10	春が来た	岡野貞一
11	さくら さくら	日本古謡
12	ふるさと	岡野貞一
13	七つの子	本居長世
14	かたつむり	文部省唱歌
15	虫のこえ	文部省唱歌
16	もみじ	岡野貞一
17	夕やけこやけ	草川信
18	ゆき	文部省唱歌
	アメリカン・クラシック／世界の民謡	
19	聖者の行進	アメリカ民謡
20	おじいさんの古時計	アメリカ民謡
21	線路は続くよどこまでも	アメリカ民謡
22	10 人のインディアン	アメリカ民謡
23	わらの中の七面鳥	アメリカ民謡
24	森のくまさん	アメリカ民謡

	曲名	作曲者名
25	ケンタッキーの我が家	フォスター
26	ロンドン橋	イギリス民謡
27	こぎつね	ドイツ民謡
28	山の音楽家	ドイツ民謡
29	ぶんぶんぶん	ボヘミア民謡
30	きらきら星	フランス民謡
31	フニクリ フニクラ	デンツァ
	クラシック	
32	ウィリアムテル序曲	ロッシーニ
33	天国と地獄	オッフェンバック
34	エンターティナー	ジョプリン
35	メヌエット ト長調	バッハ
36	花のワルツ	チャイコフスキー
37	スケーターズ・ワルツ	ワルトトイフェル
38	闘牛士の歌	ビゼー
39	ブラームスの子守歌	ブラームス
40	眠りの森の美女	チャイコフスキー
41	ガボット	ゴセック
42	ジムノペディ 1 番	サティ
43	前奏曲　作品 28-7	ショパン
44	エリーゼのために	ベートーベン
45	結婚行進曲	メンデルスゾーン
46	婚礼の合唱	ワグナー
	クリスマスの曲	
47	おめでとうクリスマス	イギリス民謡
48	ジングルベル	ピアポント
49	もろ人こぞりて	賛美歌
50	きよしこの夜	グルーバー

他の機器との接続



① PHONES（ヘッドホン端子）

ヘッドホンを接続する端子です。2 本まで接続できます。

② PEDAL（ペダル端子）

ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

③ MIDI（ミディ）

MIDI 規格に対応している楽器と接続する端子です。

④ USB to HOST（USB 端子）

市販の USB ケーブルでコンピュータやスマートデバイスと接続すると、MIDI デバイスとして認識され MIDI メッセージを送受信することができます。

USB 端子には A 端子と B 端子があり、コンピュータ側は A 端子、デジタルピアノ側は B 端子でそれぞれ接続します。

※ A 端子の USB ポートがない場合、接続には別途、変換アダプターが必要になります。

他の機器と接続するときは本機の電源を切ってから行ってください。

付録

USB ドライバーについて

コンピュータとデジタルピアノを USB 接続してデータをやりとりするためには、デジタルピアノを正しく動作させるためのソフトウェア（USB-MIDI ドライバー）がコンピュータに組み込まれている必要があります。
お使いのコンピュータの OS によって使用する USB-MIDI ドライバーが異なります。USB ドライバーに関する情報は下記の弊社ホームページよりご確認ください。
https://www.kawai.jp/product/ca49/

スマートデバイスについて

本機はスマートデバイスと接続し、楽器に対応したアプリケーションを使ってお楽しみいただけます。
ご使用の前に、下記の弊社ホームページより、各アプリケーションの最新の対応状況・動作環境情報を必ずご確認ください。
https://www.kawai.jp/product/ca49/

USB に関するご注意

MIDI と USB が同時に接続された場合、USB が優先されます。

デジタルピアノとコンピュータを USB ケーブルで接続する場合は、まず USB ケーブルを接続してからデジタルピアノの電源を入れてください。

デジタルピアノとコンピュータを USB 接続した場合、通信を開始するまでしばらく時間がかかることがあります。

デジタルピアノとコンピュータをハブ経由で接続し動作が不安定な場合は、コンピュータの USB ポートに直接接続してください。

下記の動作中、デジタルピアノの電源オン / オフ、USB ケーブルの抜き差しを行うと、コンピュータやデジタルピアノの動作が不安定になる場合があります。
「ドライバーのインストール中」「コンピュータの起動中」「MIDI アプリケーションが動作中」「コンピュータと通信中」「省電力モードで待機中」

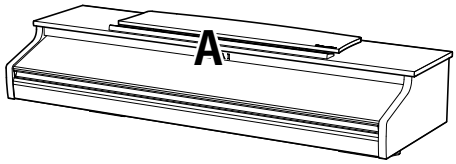
お使いのコンピュータの設定によっては、USB が正常に動作しない場合があります。ご使用になるコンピュータの取扱説明書をよくお読みの上、適切な設定を行ってください。

組み立て方

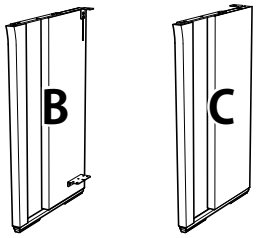
組立作業は必ず 2 人で行ってください。
本機を移動するときは、水平に持ち上げるようにし、手や指をはさんだり、足の上に落とさないよう十分注意してください。

▌部品の確認

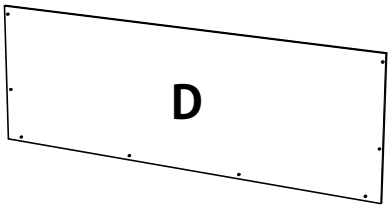
組み立てる前に、部品がそろっていることを確認してください。また、プラスドライバーをご用意ください。



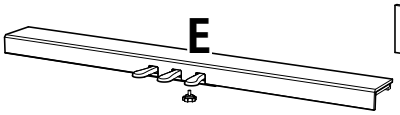
本体



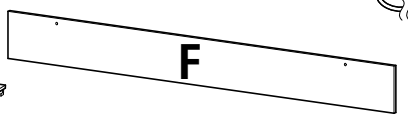
側板（左右）



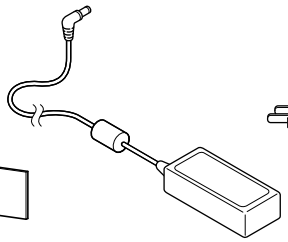
裏板



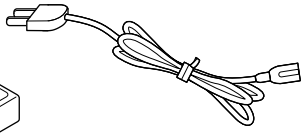
ペダル土台
ペダルアジャスター



下前板



ACアダプター



電源コード

ネジセット

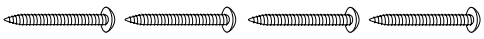
ⓐ ネジ（平ワッシャー・スプリングワッシャー付）：4本



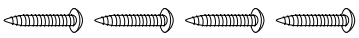
ⓑ 先の平らな短いネジ（4 x 12mm）：2本



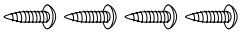
ⓒ 長い黒ネジ（4 x30mm）：4本 *



ⓓ 短い黒ネジ（4 x20mm）：4本 *



ⓔ 銀ネジ（4 x16mm）：4本 **



* 本体色がホワイトメープルとライトオークの場合、黒ネジではなく銀ネジになります。

** ⓔ銀ネジは別袋に入っています。

ヘッドホンフックセット

ヘッドホンフック



取付ネジ（4x14mm）：2本



付録

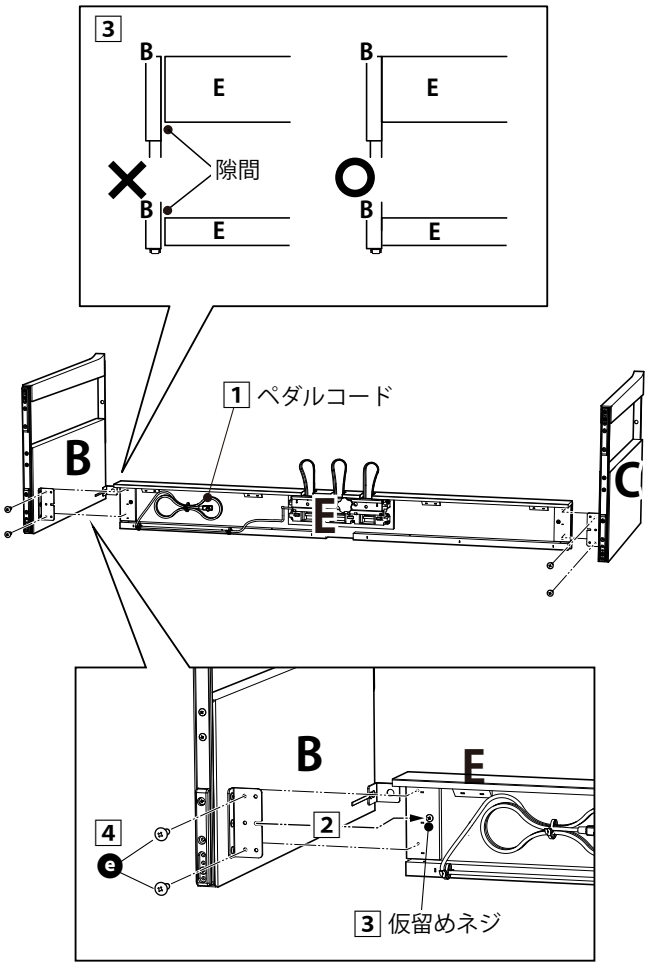
1. B・C を E に固定する

1 - 1
E に結ばれているペダルコード（1 箇所のみ）をほどいて、コードを引き出す。

1 - 2
B・**C** の金属の溝に、**E** に仮留めされているネジをはめ込む。

1 - 3
B・**C** と **E** を**ぴったりと押しあてて**仮留めネジを締める。

1 - 4
残りのネジ穴に ⓔ 銀ネジ 4 本できつく締め固定する。



2. D を固定する

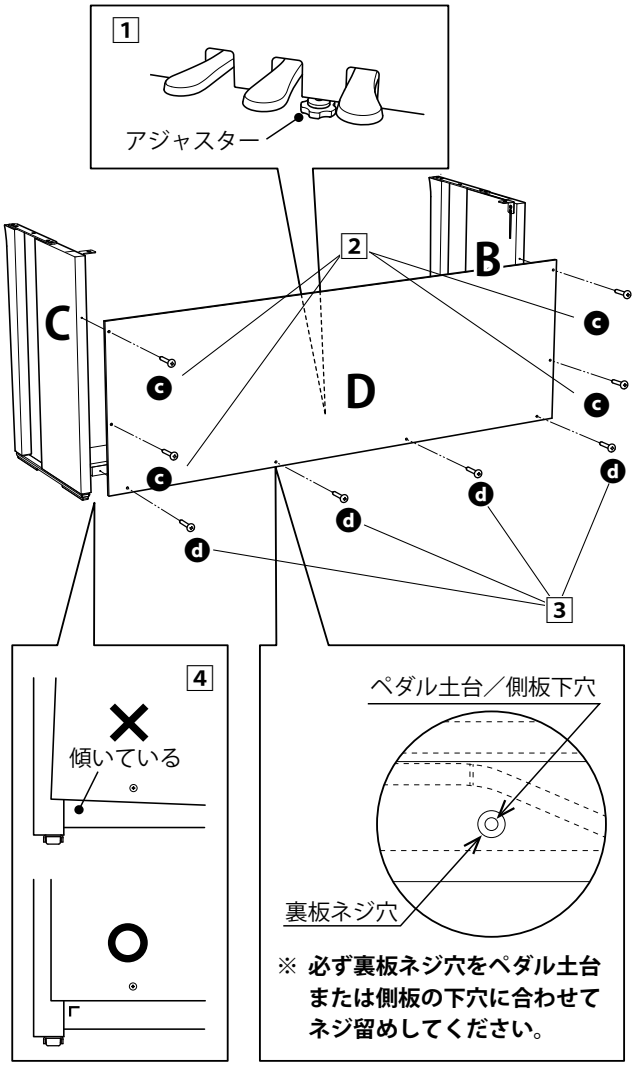
2 - 1
下図のようにスタンドを起こす。
このとき床に楽譜や部品がないこと、アジャスターがしっかり付いていることを確認する。

2 - 2
D と **B**・**C** のネジ穴の位置を合わせ、ⓒ 長い黒ネジ *4 本で仮留めする。

2 - 3
D と **E** のネジ穴の位置を合わせ、ⓓ 短い黒ネジ *4 本で固定する。

2 - 4
仮留めした ⓒ 長い黒ネジ * を **B**・**C** と **D** に**隙間がないよう密着させて傾きがないよう締める。**

* 本体色がホワイトメープルとライトオークの場合、黒ネジではなく、銀ネジになります。



3. A を載せる

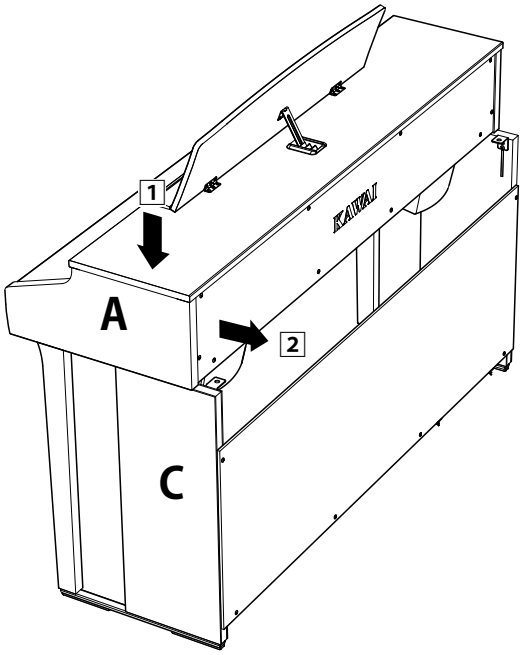
3 - 1

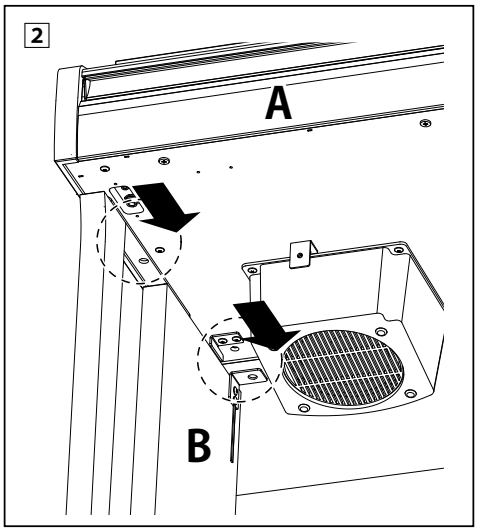
A を十分上に持ち上げ、スタンドを真上から見て本体の後ろに金属の穴が見えるくらいの位置に静かに載せる。

3 - 2

C スタンドを固定して、本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後ろにスライドさせると、本体のフックが側板の金具に引っかかります。

> ⚠ **本体とスタンドの間で手や指をはさまないよう注意してください。**





4. A を固定する

4 - 1

本体とスタンドを ⓐ ネジ（平ワッシャー・スプリングワッシャー付き）4 本で仮留めする。

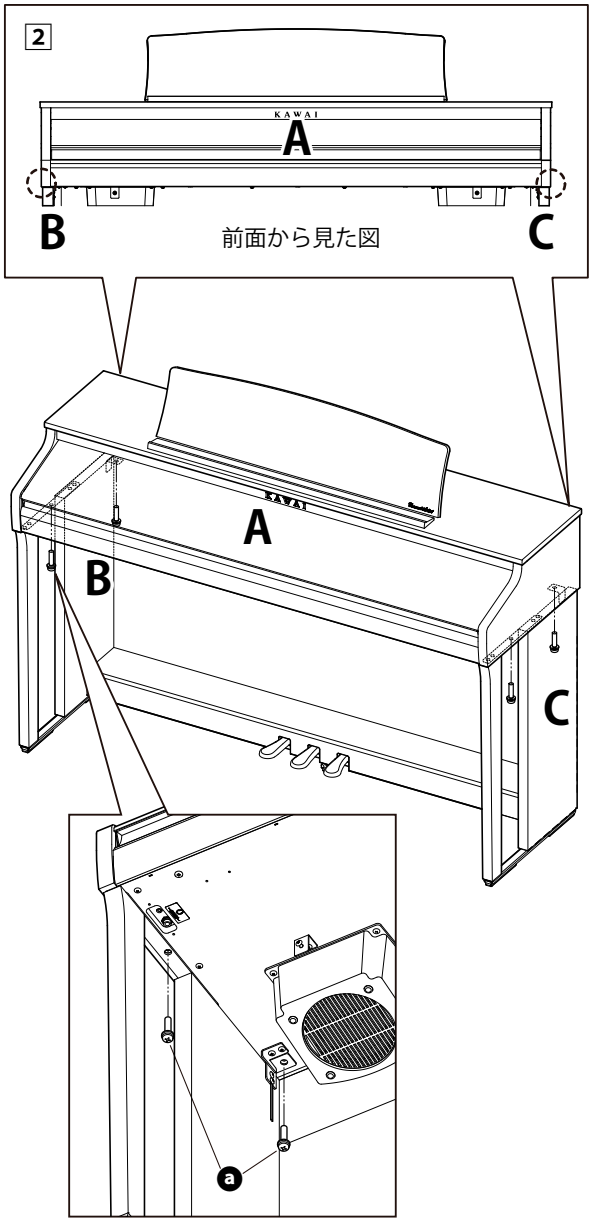
4 - 2

まず、ネジを軽く締めて 4 本のネジがまっすぐ入るように本体の位置を動かし、前面から見て **A** 本体の左右の張り出し部分が均等になるよう調整する。

4 - 3

最後に、仮留めしたネジをスプリングワッシャーがつぶれるまでしっかり締めて固定する。

> ❗ **必ず本体とスタンドをネジで固定してください。固定しないと、本体がスタンドから落ち大変危険です。**



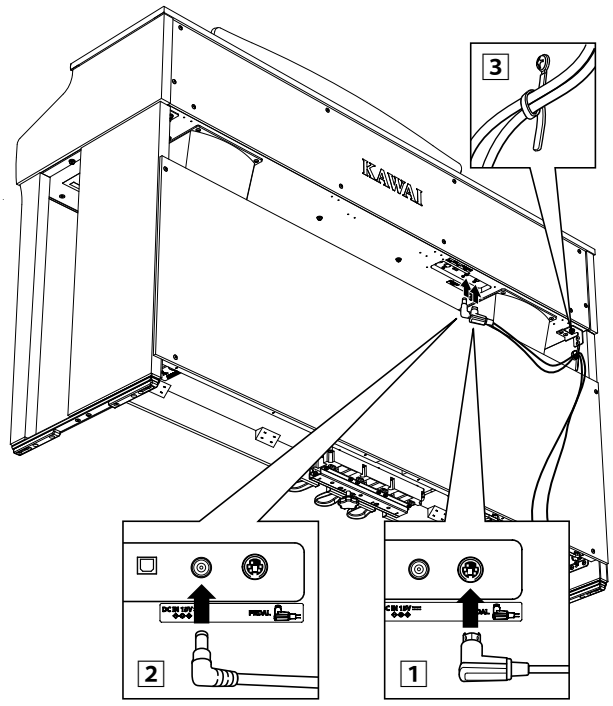
5. コード類を接続する

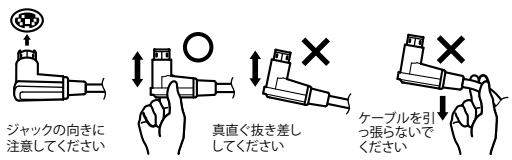
5 - 1
ペダル土台から出ているペダルコードを本体のペダル端子に差し込み、裏板上の隙間よりコードを後ろに通す。

5 - 2
AC アダプターの端子を DC IN に差込み、裏板上の隙間よりコードを後ろに通す。

5 - 3
コード類を **B** に付いているバインダーで固定する。

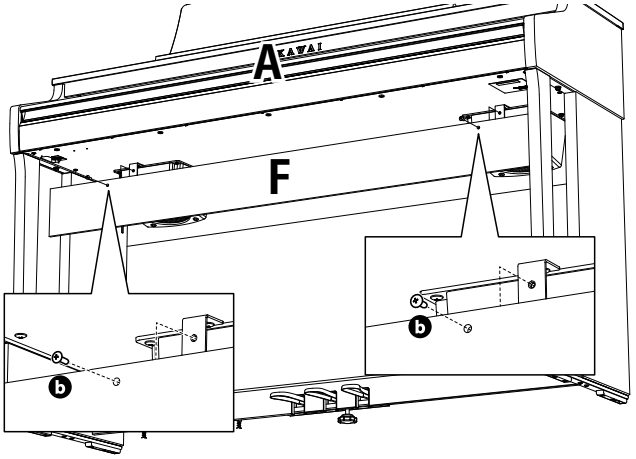
> ⚠ **・端子部の向きに注意してください。**
> **・コネクターはまっすぐ差し込んでください。**
> **無理に押し込むと故障の 原因になります。**



> **プラグは、正しい向きで真っ直ぐ抜き差しし、無理な力をかけないでください。ピンが曲がったりプラグが破損したりします。**
>
> ⚠
>
> 
>

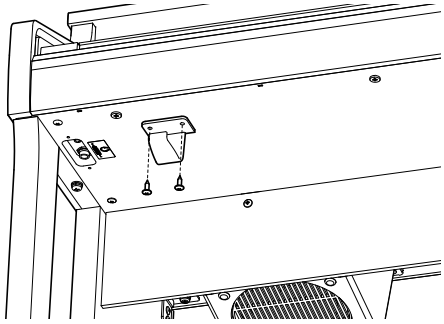
6. F を取り付ける

ⓑ 先の平らな短いネジ 2 本で **A** の下にある金具に **F** を取り付ける。



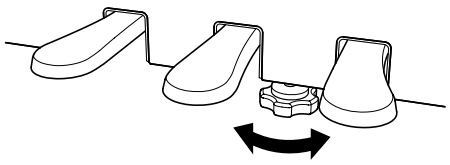
7. ヘッドホンフックを取り付ける

ヘッドホンフックは同じ袋に入っている 2 本のタッピングネジ（4 x 14mm）で図の穴に固定する。



8. アジャスターを回す

ペダル土台の裏にはめたアジャスターを、床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強する。
床の材質、状態によってはペダル踏み込み時に床との間で摩擦音が発生することがあります。その際はフェルトやカーペットなどを床とアジャスターの間に挟み調整してください。



> ❗ **アジャスターをしっかり床に付けないとペダル土台が壊れる恐れがあります。**
> **なお、移動の際は、引きずらないで、必ず床から持ち上げて移動してください。**

仕様

鍵盤	88 鍵 木製鍵盤 グランド・フィール・スタンダード・アクション アイボリータッチ、レットオフフィール
同時発音数	最大 192 音（音色により異なる）
音色	19 音色 （P. 10 参照）
ディスプレイ	128 × 128 ドット　有機 EL ディスプレイ
効果	リバーブ（ルーム、ラウンジ、スモールホール、コンサートホール、ライブホール、カテドラル）
レッスン	バイエル 全 126 曲（バリエーション 20 曲を含む） ブルクミュラー 全 25 曲 チェルニー全 30 曲 ショパンワルツ全 19 曲 （右手 / 左手個別再生可、テンポ変更可）
メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8 拍子
内部レコーダー	3 ソング、総記憶音数　約 10,000 音
デモソング	全 19 曲
コンサートマジック	全 50 曲
トランスポーズ	-12 ～ +12 半音
その他機能	トランスポーズ、トーンコントロール、小音量バランス、デュアル、4 ハンズ（連弾演奏）、 チューニング、タッチカーブ、おまかせ設定、ダンパーノイズ、88 鍵ボリューム、 スタートアップセッティング、スペイシャル・ヘッドホン・サウンド、 ヘッドホンタイプ、Bluetooth MIDI、MIDI セッティング、オートディスプレイオフ、 オートパワーオフ、ファクトリーリセット、表示言語
ペダル	ダンパー（ハーフペダル対応）、ソフト、ソステヌート
キーカバー	スライド式
外部端子	ヘッドホン（2）、MIDI（IN, OUT）、USB to HOST
出力	20W × 2
スピーカー	5cm × 2（ツィーター）/13cm × 2（ウーファー）
定格電圧	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	12W
寸法	136 (W) × 46 (D) × 91.5 (H) cm （譜面立てを倒した状態）
重量	58kg
同梱品	本体 / スタンド / 高低自在椅子 / 電源コード /AC アダプター（PS-154） ヘッドホン / ヘッドホンフック / 取扱説明書（本書）/ スタンド組立説明書 / 保証書

※ 本仕様、及び同梱品につきましては改良のため、 予告なく変更することがあります。

株式会社 河合楽器製作所

電　子　楽　器　事　業　部

〒430-8665 浜 松 市 中 区 寺 島 町200番 地

TEL. 053-457-1277 / FAX. 053-457-1279

h t t p s : / / w w w . k a w a i . j p /

■ お問合せ先について

◆お客様相談室

TEL. 053-457-1311 / E-mail. customer@kawai.co.jp
電話受付時間　9：00〜12：00 / 13：00〜17：00
（土曜、日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます。）

◆修理受付窓口

電子楽器コールセンター
TEL：053-457-1295 / E-mail：denshi-callcenter@kawai.co.jp
電話受付時間　9：00〜12：00 / 13：00〜17：00
（土曜、日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます。）

各エリアの修理受付窓口は弊社Webページよりご確認ください。
電話・FAX・インターネットでお問い合わせいただけます。
https://www.kawai.jp/support/service/ep/repair/

故障と思われる場合につきましては、お買い求めいただいた販売店、もしくは上記の修理受付窓口にお問い合わせください。
その他ご不明な点などございましたら、上記のお客様相談室にお問い合わせください。

本取扱説明書の一部、あるいは全部を無断で複写・転載することを禁止します。
3000002698
SP00000206 R102
Printed in Indonesia
3000002698-R102